

# 日中対照から見る 「笑い」に関するオノマトペの特徴

孫 逸

キーワード：日中対照、笑い、オノマトペ、使用実態

## 要 旨

本稿は日中両言語における「笑い」に関するオノマトペを対照し、その特徴を明らかにするものである。本稿では日中コーパスから収集した用例を利用し、それらの使用実態を調査した上で、「擬音語」「擬態語」の分布特徴における日本語と中国語との相違を明らかにした。また、具体的な用法について、日本語における「笑い」に関するオノマトペは、「引用用法」と「するの後接用法」との相補分布が見られるのに対し、中国語における「笑い」に関するオノマトペが、「引用用法」は「擬音語」に限定されていると言える。また、中国語における「擬態語」の用法はオノマトペ自体の性質と後接語の多様性によって、「的”地”との後接用法に集中していると考えられる。

## 1. はじめに

日本語におけるオノマトペは、同じような場面で使われるオノマトペ同士が語形の上では似ているように見えるが、それぞれの語が異なるニュアンスを有している場合が少なくない。例えば、「笑い」を表現するときに、日本語では以下のような用例が見られる。

- (1) 彼はにこにこしながら若い女性に声をかけた。
- (2) 彼はにたにたしながら若い女性に声をかけた。
- (3) 彼はにやにやしながら若い女性に声をかけた。

（『現代擬音語擬態語用法辞典』 p.349 より）

日本語話者にとっては以上のようなオノマトペの使い分けが問題にならないが、外国人学習者がそれらのニュアンスを理解して正確に使用することは容易ではない。例文(1)～(3)で用いられた3つのオノマトペを日本語と中国語との対訳によく使用される翻訳アプリで検索したところ、以下のような結果が得られた。

表1 例文(1)～(3)の翻訳例

	グーグル (Google) 翻訳	百度 (BAIDU) 翻訳	有道 (YOUDAO) 翻訳
にこにこ	快乐的, 面带微笑	笑嘻嘻, 笑眯眯	嘻嘻
にやにた	咧着嘴笑	笑嘻嘻	嘻嘻
にやにや	×	×	×

表1から、日本語の「笑い」に関するオノマトペが中国語に訳されるときには、“快乐的, 面带微笑”のようにオノマトペ以外の形式で翻訳する場合と、“嘻嘻”のように対応する中国語のオノマトペを用いて翻訳する場合とがあると言える。さらに、中国語オノマトペで翻訳された場合には、“笑嘻嘻”に訳される場合が多いため、区別が明確でないと言える。

また、例文(1)～(3)のような日本語のオノマトペを学習者がよりスムーズに理解できるようになるためには、まず、日常会話で出現頻度が高いオノマトペを対象とした研究が必要である。本稿では、日常会話で出現頻度が高いと考えられる日中両言語における「笑い」に関するオノマトペを対象にし、それらの使用実態を調査した上、用法上の相違を考察する。

## 2. 先行研究

### 2.1 日本語における「笑い」に関するオノマトペの研究

「笑い」に関するオノマトペの音象徴性について、角岡(2007)は「ハ行」の5音を例として「ハ」は豪快な笑い、「ヒ」は隠微な笑い、「フ」は含み笑いのように独善的、「へ・ホ」は「下品さ・上品さ」といった共通のイメージがあると指摘している。

また、「笑い」に関するオノマトペの用法について、金田一(2004: 119)は日本語の音節は単純で、「ニコッと笑う」、「ニタッと笑う」という笑い方の違いを表すため

には「ニコッ」「ニタッ」のようなオノマトペが必要であると主張している。その原因について、中国語には“微笑”（「ニコニコ笑う」）“大笑”（「ゲラゲラ笑う」）“讪笑”（「ニヤニヤ笑う」）などのようにさまざまな「笑い方」を表す動詞があるのに対して、日本語は中国語のように動詞が豊富ではないから、それを補うためにオノマトペを用いるしかないと分析している。しかし、「笑う」と共起する用法以外の用法については、言及されていない。

さらに中里（2007）は、笑いを描写するオノマトペの変遷について考察している。まず、中里（2007）は「笑い」の表現には①笑い声、②笑う時の表情・笑い方・笑う時の姿態、の描写があるとしている。次に、笑い声を表す（模写に近いオノマトペ）は近代以後現代に至るまでの間に様々なオノマトペが新しく作られたが、笑い声を表す（象徴度の高いオノマトペ）と、笑いの表情・笑い方に関しては、近代になって新たに作られたオノマトペはほとんど見られなかったと述べている。この研究は「笑い」を描写するオノマトペを中心にし、その語群の歴史的な変遷を明らかにしたものであるが、それぞれの用法の変化、特に現代語での副詞以外としての用法はどのようになっているのかという点については、さらに考察する必要があると思われる。

## 2.2 中国語のオノマトペに関する研究

日本語ではオノマトペの定義が明確であり、その範疇についても認識がある程度は定着しているのに対し、中国語では“象声詞”の定義や用法が研究によって異なっており、定説を見ていない。そのため、中国語のオノマトペ研究は日本語ほどは進んでいないと言える。さらに、「笑い」に関するオノマトペの研究はかなり少ない状態にある。

まず、夏（2019）は日本語のマンガとその中国語版における「笑い」に関するオノマトペを研究の対象とし、「笑い」に関する日中オノマトペの音韻的な特徴に注目して考察を行ったものである。日中両語における「笑い」に関するオノマトペの音節要素を分析することで、両言語は発音の似ているオノマトペが多く、音韻的な特徴も似ていると言えるが、具体的な感情表現のニュアンスは母音によって違いが生じると主張している。

次に侯・松尾（2019）はマンガ『クレヨンしんちゃん』を調査対象にし、その中に現れた日本語オノマトペの中国語訳の適切性について考察を行った。侯・松尾（2019）の調査結果によると、日本語オノマトペの中国語訳のうち、適訳が全体の6割近くを占め、不適訳・誤訳・翻訳されなかったものの合計が4割を占めた。後者の4割のうち、

不適訳が2割弱、誤訳が1割強、翻訳されなかったものが1割程を占めているという結果であった。このような結果から、日本語オノマトペを中国語に訳す場合に誤訳も少なからず存在し、これは日中オノマトペの間に相違があることを示唆していると指摘している。

また、侯・松尾（2019）は、適訳の例を分析し、その特徴を5つ<sup>1</sup>にまとめた。その特徴のひとつとして、笑い声や泣き声などの感情を表すオノマトペについては適訳と判断できるものが多かったということを挙げている。また、侯・松尾（2019）は、「笑い声」を表現するオノマトペは日本語にも中国語にも存在し、お互いに訳される可能性が高いと考えられるが、「笑う様子」を表現するオノマトペの場合についての日中両言語の対応関係の考察には、まだ至っていないとしている。

本稿では、先行研究の問題点を踏まえ、日中両言語における「笑い」に関するオノマトペの実際の使用状況を調査し、収集された用例を分析することによって、それらの使用上の相違点を検討する。

### 3. 調査方法

本研究では、日本語コーパスと中国語コーパスをそれぞれ利用して用例調査を実施するという研究方法を採る。日本語のオノマトペは、国立国語研究所で制作された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）（以下では「BCCWJ」と称する）を用いて用例を収集し、中国語のオノマトペは、『現代汉语語料庫』（CCL）（以下は「CCL」と称する）を用いて用例を収集した。このように日中両言語のコーパスをそれぞれ利用し、選定した研究対象のオノマトペを調査することで、日中両言語における「笑い」に関するオノマトペの使用実態を把握する。さらに、コーパスの用例を参照しながら、「笑い」を表現するときに使用される日中オノマトペが、それぞれどのような特徴を持っているのかという点について、詳しく検討する。

### 4. オノマトペの使用実態

---

<sup>1</sup>侯・松尾（2019）は、適訳から見られる特徴を、以下のように大きく5つに分けている。①犬の鳴き声や鳥のさえずりなど、動物の鳴き声のオノマトペは適訳されている。②笑い声や泣き声などの感情を表すオノマトペは適訳と判断できるものが多かった。③いびきや咳などの生理現象に対するオノマトペは適訳となっている。④風の音など自然に関わる音のオノマトペとみなすことができるものが多かった。⑤「もみもみ」や「ふきふき」、「ぱっ」といった、擬音語ではなく、擬態語は多くの場合適訳となっている。

## 4.1 日本語における「笑い」に関するオノマトペの使用率

『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語 4500』における『感情・感覚に関するオノマトペ』－【笑う】の部分参照し、「笑い」を表現する 74 語を研究対象として「BCCWJ」での用例数を調査した。「BCCWJ」で調査した結果について、74 語の各語の用例数は以下、表 2 に示した通りである。

表 2 「BCCWJ」で調査した日本語における「笑い」に関するオノマトペの用例数

語	用例数	語	用例数	語	用例数	語	用例数
にこにこ	972	げらげら	127	あっはっは	36	にっこにこ	5
にっこり	914	ほくほく	123	からから	33	えへらえへら	5
ははは	860	わーっ	109	ふっふっ	33	うひょうひよ	4
あはは	748	くすっ	107	ころころ	32	くっく	4
にやり	639	はっはっは	95	ほっほっ	26	けっけっ	4
にやにや	445	きゃー	71	くすん	23	かかか	3
ふふ	395	くすり	69	けたけた	23	きゅっきゅっ	2
うふふ	357	けらけら	67	おほほ	21	くーっ	2
くすくす	289	へらへら	67	けけ	18	けるける	2
ぷっ	285	くっくっ	66	へっへっ	13	ぷー	2
くっ	272	がはは	54	にかっ	13	にたりにたり	2
にやっ	210	わはは	52	うふっ	10	にーっ	2
にこっ	196	どっ	52	くくっ	10	かんらんらん	1
ほほほ	193	ひひひ	50	うひひ	9	げたげた	1
えへへ	181	ふっ	50	にたっ	9	ぎやはは	0
へへへ	165	ふふん	46	いひひ	7	くすりくすり	0
にこり	161	にたにた	43	うっしっし	6	げたっ	0
にっ	148	きゃっきゃっ	40	ひっひっ	6		
にんまり	145	うはうは	39	あはあは	5		

「擬音語」と「擬態語」それぞれの使用率を明らかにするため、『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語 4500』を参照したところ、日本語における「笑い」に関するオノマトペは、【声・さま】と【さま】という二種類に分けられる。いわゆる、前者は

「擬音語」「擬態語」の性質を両方持っている語であり、後者は「擬態語」の性質だけを持っている語である。研究対象の 74 語の「笑い」に関するオノマトペの解釈を見ると、「擬声語」「擬態語」の分布は以下の表 3 になる。

表 3 「笑い」に関するオノマトペの性質の分布

分類	語数/ 比率	語例
【さま】——擬態語	20 / 26.7%	うっしっし、えへらえへら、ぎやはは、げたっ、 にーっ、にかっ、にこっ、にこり、にっこり、に こにこ、にたっ、にたにた、にたりにたり、に っ、にっこにこ、にやっ、にやにや、にやり、に んまり、ほくほく
【声・さま】----- 擬音語・擬態語	55 / 73.3%	げらげら、くすくす、がはは、からから、くっく っ、ふふん、ははは、ひひひ

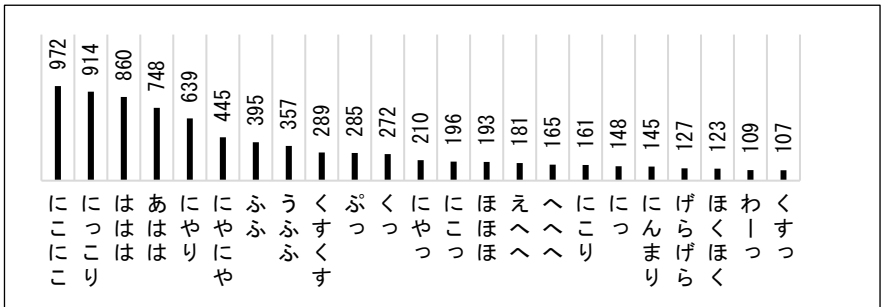


図 1 「笑い」を表すオノマトペの用例数

表 4 擬態語(【さま】を表すオノマトペ)の使用率の比較

「笑い」オノマトペ全体	擬態語	(20 語/27.0%)
使用率高い順(全 23 語)	擬態語	(10 語/43.5%)

日本語の「笑い」を表現するオノマトペの中で、擬態語の性質のみを持っている語は 20 語であり、他の語は全て擬音語と擬態語の両方の性質を持っている。そこから、日本語の「笑い」に関するオノマトペは、①単なる「擬態語」である語が少ない；②単なる「擬音語」である語がない；③「擬音語」の性質を持っている語は、必ず「擬

態語」の性質を持っている語であるという 3 つの特徴を持っていることが読み取れる。すなわち、日本語には「音」を模倣しながら「様子」を表現する語がかなりあるということである。

また、日本語における「笑い」に関するオノマトペの分布と使用実態について、「擬態語」はオノマトペ全体における語数は少ないものの、使用率は高いという特徴が見られる。

#### 4.2 中国語における「笑い」に関するオノマトペの使用実態

中国語の「笑い」に関するオノマトペを抽出するため、《現代汉语规范词典》(2012版)、《新华大字典》(2012版)、《现代汉语词典》(2012版)を参照し、「笑う声」「笑う様子」「笑う表情」のような意味を持っている語、すなわち笑いを表現する語を抽出した。抽出された語を表現内容から分類すると、笑う声を表現する擬声語と、笑う様子を表す擬態語に分けられる。また、語形の特徴から分類すると、反復形と非反復形に分けられる。表現内容と語形の特徴を組み合わせると、中国語における「笑い」オノマトペは2つのグループに分けられる。

表 5-1 グループ A. 笑う声 (反復形) (擬音語)

哧哧(吃吃) 嘎嘎 咯咯 格格 哈哈 呵呵(嗬嗬) 嘿嘿(嗨嗨) 扑哧(噗嗤) 嘻嘻 嚯嚯(霍霍)
---

表 5-2 グループ B. 笑う様子 (笑+反復形) (擬態語)

笑哈哈 笑呵呵 笑嘿嘿 笑咧咧 笑咪咪(笑咪咪 笑迷迷) 笑微微 笑嘻嘻 笑吟吟 笑盈盈 笑悠悠
---

グループ A とグループ B を見ると、両方とも 10 語であることから、中国語における「笑い」に関するオノマトペは、「擬音語」と「擬態語」の分布に殆ど差がないことが明らかになった。しかし、実際に使用される用例を調査すると、グループ別の用例数は以下ようになる。

表 6 中国語における「笑い」を表現する「擬音語」と「擬態語」の分布

	用例数合計	割合
グループ A (擬音語)	11370	79.13%
グループ B (擬態語)	2999	20.87%

表 6 からわかるように、グループ A (擬音語) 用例数の合計は 11370 例であり、グループ B (擬態語) の用例数の合計は 2999 例である。すなわち、中国語の場合、「笑い」に関するオノマトペは「擬音語」の方が多用されていると言える。これらを踏まえて日中両言語における「笑い」に関するオノマトペの分布と使用実態を比較すると、その相違は以下の表 7 のようにまとめられる。

表 7 日中両言語における「笑い」に関するオノマトペの分布と使用実態の比較

	オノマトペの分布	使用実態
日本語	擬音語 > 擬態語	擬音語 < 擬態語
中国語	擬音語 = 擬態語	擬音語 > 擬態語

「擬音語」「擬態語」の分布について、日本語は「擬音語」の方が数が多いのに対して、中国語は「擬音語」と「擬態語」の差が見られなかった。また、使用実態について、日本語では「擬態語」が多用されるのに対し、中国語では「擬態語」の方が多用されるということが明らかになった。

## 5. 「笑い」に関する日中オノマトペの用法

### 5.1 日本語における「笑い」に関するオノマトペの用法

本節では、「笑い」に関するオノマトペが「笑う」と共起する場合以外の用法についての使用実態を考察する。ここでは用例数が多いものには、その用法にバリエーションが見られると想定し、表 2 で用例数が 100 例以上となっている語を中心に考察を行った。「BCCWJ」で検索した結果、「笑い」に関するオノマトペの用法は、主に以下の 5 種類に分けられる。

#### a. 名詞が後接する

- (4) 腹が立つことがあってもでにっこり笑顔うまくかわしましょう。
- (5) 不真面目な顔無表情の顔、逆にニヤニヤ顔などすべて減点になる。



- (6) 区役所別館幼児室で「ニコニココーナー」を開設しています。
- (7) にこにこ子育て相談予約不要です。
- (8) 毎月25日はにこにこ料理の日
- (9) ニヤニヤ笑いを浮かべながら、あたしの足を押さえつける。
- (10) 「元氣そうに見えますが」と問うと、彼はにこっと照れ笑いを浮かべながら、少し戸惑った様子であった。
- (11) ハニフの方も花が咲いたように顔をほころばせて、にっと白い歯を見せた。

b. 動詞が後接する(「笑う」以外)

- (12) 妙子がにっこり微笑むと、いきなり抱きついてきた。
- (13) 以上で、なぜゲルマン国の外務大臣がニヤリとほくそえんだか、おわかりいただけと思う。
- (14) 仕事をほったらかして話に熱中している様子を見て、何だろうと出て来た文子にも、男はにこにこ語りかけた。
- (15) 砂沢はニヤニヤしながら、体を起こしてお茶を飲んだ。
- (16) 怒るのは当然至極。今まで、にこにこ付き合ってきた方が不思議だよ。
- (17) 台所で、浴衣の肌脱ぎになって汗を拭いていた父が、にこにこ出迎えてくれた。

c. 形容詞・形容動詞が後接する

- (18) 安定期に入り、悪阻もおさまると嘘のようにそれがおさまり、ニコニコ楽しく過ごせるようになりました。
- (19) いつもにこにこ元氣な子、が好ましい像であり、怒りっぽくて不機嫌な子は、その対局にある。

d. 引用

- (20) 「奥さん！」とバイクに乗った若い出前持ちさんに、声かけられ「うふふ、きょうのファッションもイケてるかしら？」なんて思って振り返ったら「背中！」だって。
- (21) 春生の一言で、隆一は急に「えへへ」と機嫌のよさそうな笑顔になる。
- (22) 「どう、ちがうんですか」「多幸焼きにはな、たこが入っとらんね。わはは。」

e. その他

- (23) 真剣に話を聞いてくれたけれど、にこりともしないので私はすっかりとま

- どってしまった。
- (24) 男のニコニコは信用しませんが（笑）、女のニコニコはとてもすばらしい。
- (25) どことなく嬉しそうで、ニヤニヤは止まらない。
- (26) お絵かきしてる人達を見てニヤニヤなんかしてないんだから。
- (27) とにかく琢哉は、この事態を深刻に心配しているのに、私と二人の五年生はニヤニヤです。
- (28) 場所代も何もとりませんが、売り上げのほんの一部だけマックローに寄付してもらいニコニコです。

(4)~(28)の例に示したように、「笑い」に関するオノマトペは、「笑う」と共起する用法以外に、その後接語の種類でおよそ5類別に分けられる。その5つの用法は、「笑い」に関するオノマトペごとに用例数も異なっている。具体的な用例数は表8の通りである。

表8 「笑い」に関するオノマトペの用法別の用例数

	名詞の後接	動詞の後接/「する」の後接	形容詞の後接	引用	その他
にこにこ	117	411/402	4	0	18
にっこり	16	403/264	0	0	6
ははは	0	0	1	817	0
あはは	0	0	0	715	0
にやり	12	190/181	6	0	1
にやにや	11	199/189	1	0	6
ふふ	0	2/0	0	343	0
うふふ	1	0	0	317	1
くすくす	27	2/0	0	6	0
ぷっ	0	11/0	0	169	0
くっ	0	0	0	119	0
にやっ	3	45/41	0	0	0
にこっ	8	50/34	0	0	0
ほほほ	0	0	0	165	0
えへへ	1	0	0	156	0
へへへ	0	0	0	148	

にこり	8	25/13	0	0	84
にっ	0	12/3	0	0	0
にんまり	5	62/58	1	0	3
げらげら	3	0	0	3	1
ほくほく	17	4/3	0	0	0
わーっ	0	2/0	0	68	0
くすっ	0	2/0	0	22	0

表8で表した「「する」の後接」用法と「引用」用法を見ると、この2つの用法の出現頻度が相補分布をなしている。具体的には、「「する」の後接」用法で用例が見られる場合には、「引用」用法は見られず、「引用」用法で用例が見られる場合には、「「する」の後接」用法は見られない。この関係は、図2のようにまとめられる。

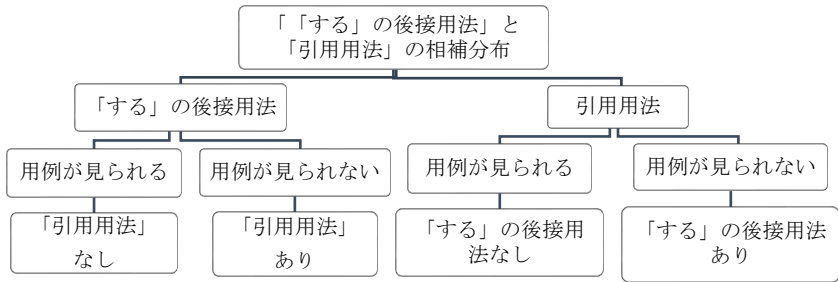


図2 「笑い」に関するオノマトペの用法の相補分布関係

## 5.2 中国語における「笑い」に関するオノマトペの用法

中国語のオノマトペの用法について、野口（1995）は、「状語（状況語）となる」「定語（限定語）となる」「補語となる」「謂語（述語）またはその中心語となる」「独立語となる」という5つの用法に分けている。

また、野口（1995）があげた中国語オノマトペの5つの用法は、後接する語によって、主に「的（de）」が後接、「地（de）」が後接、何も後接しないという3種類にまとめられる。これを踏まえた上で本研究は、後接語の種類によって、中国語の「笑い」に関するオノマトペの他の用法を、「的（de）」が後接、「地（de）」が後接、引用用法

2、その他<sup>3</sup>という 4 つの種類にわけて、それぞれの用例数を調査した。中でも特に、中国語における「笑い」に関するオノマトペの引用用法については、グループ A とグループ B との間に明らかな相違が見られた。

表 9 中国語の「笑い」に関するオノマトペの他の用法の用例数

グループ別	語	全用例数	+ 的		+ 地		引用		その他	
			用例数	割合 %	用例数	割合 %	用例数	割合 %	用例数	割合 %
グループ A	哈哈	6277	236	3.76	386	6.15	2153	34.30	2118	34.01
	呵呵	1504	173	11.5	627	41.69	496	32.98	126	8.38
	嘿嘿	1311	14	1.07	111	8.47	804	61.33	76	5.80
	嘻嘻	1033	24	2.32	104	10.07	206	19.94	448	43.37
	咯咯	837	97	11.59	232	27.72	101	12.07	58	6.93
	哧哧	167	23	13.77	66	39.52	2	1.20	2	1.20
	嘎嘎	145	5	3.45	21	14.48	2	1.38	5	3.45
	噗嗤	93	2	2.15	11	11.83	6	6.45	61	65.60
嚯嚯	3	0	0.00	3	100	0	0.00	0	0.00	
グループ B	笑嘻嘻	1222	303	24.8	786	64.32	0	0.00	55	4.50
	笑眯眯	772	163	21.11	539	69.8	0	0.00	36	4.66
	笑吟吟	411	125	30.41	231	56.20	0	0.00	42	10.22
	笑盈盈	238	55	23.11	159	66.81	0	0.00	8	3.36
	笑呵呵	235	33	14.04	177	75.32	0	0.00	10	4.26
	笑哈哈	81	8	9.88	47	58.02	0	0.00	9	11.11
	哈哈									

<sup>2</sup>野口（1995）が挙げている【独立語となる】という用法は、日本語のオノマトペを考察する際に定義した【引用用法】と同じものであると捉えられる。ここでは、日本語の引用用法と比べるため、「引用用法」と呼ぶことにする。

<sup>3</sup>ここでの「その他」の用法は、主に“○○＋一笑”“○○＋大笑”のような固定的な形式を指す。なお、“的（de）”が後接する用法、“地（de）”が後接する用法、引用用法以外の用法を全て「その他」の用法に入れるわけではないため、表 9 であげられた 4 つの用例数を足すと全用例数にならないのである。

笑微微	29	5	17.24	16	55.17	0	0.00	5	17.24
笑咧咧	8	1	12.5	7	87.50	0	0.00	0	0.00
笑悠悠	2	1	50	1	50.00	0	0.00	0	0.00
笑嘿嘿	1	0	0.00	1	100	0	0.00	0	0.00

5.1 で述べたように、日本語における「笑い」に関するオノマトペの使用については、明らかな「相補分布」が見られるが、それに対して、中国語の場合は特にそのような現象が見られなかった。しかし、「引用用法」について、中国語の場合には「擬音語」「擬態語」の使い分けが明確に見られ、「擬態語」の性質を持つオノマトペは、引用用法として用いられないと言える。すなわち、中国語の場合、引用用法は「擬音語」に限定されているということになる。

また、グループ B の擬態語の用法を見ると、それらの用例は“的”“地”が後接する用法に集中していることが指摘できる。さらに、“的”が後接する用法よりも“地”が後接する用法の方が多用されると言える。

ここで、野口 (1995) が示した中国語オノマトペの働きにおいて、“的”が後接する場合は、【定語(限定語)となる】【補語となる】【謂語(述語)またはその中心語になる】という 3 つの可能性があるのに対して、“地”が後接する場合は、【状語(状況語)となる】という働きのみである。続いてこの定義を利用して用例分析を行う。

(29) a. 小穗，就是那种即使被冤枉，脸上还是笑嘻嘻的人。

(【定語(限定語)】)

b. 两人虽是不必开口唱，可是她向台下看着，老是那一种笑嘻嘻的样子。

(【定語(限定語)】)

c. 他五十六岁，兴致挺好，可是喜欢生气，浓眉底下藏着一对笑咪咪的眼睛，光秃的脑袋好比一个矗在头发巢上的鸡子。

(【定語(限定語)】)

d. “当然罗，我记得！”乐得笑哈哈的金塞拉回答说，一面喝着刚端来的马丁尼鸡尾酒。

(【補語】)

e. 梅腊妮是断断不肯得罪雅赫雅的，因此大费踌躇。看冤喜时，只是笑吟吟的。

(【謂語(述語)またはその中心語】)

- (30) a. 在青年会上，新治常常是规规矩矩地抱膝而坐，笑咪咪地倾听别人的意见。  
 b. 今天一大早起，他就在地里转游，一扫见我，老远就笑哈哈地说：“嫂子，今年这秋庄稼长得可真不赖呀！”  
 c. 正和赵蕾笑盈盈地从一家商店出门的周瑾吓了一跳，原地呆住。  
 d. 他们嗔怪我，一直到离开都带着蔑视的眼神儿。可你却笑咪咪地坐在那儿。  
 e. “康德的论证也同样没有说服力，”博学多才的主编笑呵呵地反驳说…

(29)に挙げた擬態語に“的”が後接する用例を見ると、オノマトペの働きにはバリエーションがあり、【定語】【補語】【謂語】となることが確認できた。“的”後接する語の品詞は全て名詞であるが、多様な名詞（例：人；様子；眼睛；人名）が後接できる。さらに、(29e)のように、何も後接せずに述語となる用法もある。

前述の通り、“地”が後接する場合は、オノマトペは【状語（状況語）となる】という働きのみを持つと考えられる。そのため、(30)で挙げた擬態語に“地”が後接する場合には、その後接する語の品詞は動詞であると言える。さらに、「笑う様子」を表す擬態語に“地”が後接する際に、後接する動詞は「笑う動作」を表す語に限られず、多様な動詞（例：倾听；说；坐；反驳）が現れると言える。

次に、擬態語の場合と比較するため、擬音語に“的”、“地”が後接する用例についても考察する。

- (31) a. 风鼓起他的衣衫，背后传来梁志华哈哈的笑声。 （【定語(限定語)】）  
 b. 宝坠不知什么时候醒了，坐起来看着他们跃动的影子，后来发出嘻嘻的笑声。 （【定語(限定語)】）  
 c. 少女深吸了一口气的声音重迭着连见呵呵的傻笑声。 （【定語(限定語)】）  
 (32) a. 端午赋歪了半天，十分狼狈，只是一个劲儿地嘿嘿地傻笑。  
 b. 说到这里，他笑，我的朋友也哈哈地乐了。  
 c. 你们嘻嘻地怪笑着，你们伸出腿，你们脸上挂笑脚下使绊子。

(31)で挙げたグループ A の擬音語の用例を見ると、擬音語の働きは全て【定語】である。また、“的”の後接する語はすべて名詞であり、その内訳については殆ど「笑い声」の意味を表す語（例：笑声；傻笑声）であると言える。

また、(32)に示したように、「笑い声」を表す擬音語に“地”が後接する場合には、その後接する動詞の内訳は主に「笑う動作」を中心にした語（例：笑；乐；怪笑）で

ある。

以上のように、「笑い」に関する擬音語と擬態語に“的”、“地”が後接する用例をそれぞれ分析した。これらの特徴をまとめると、表 10 のようになる。

表 10 中国語の「笑い」に関する「擬音語」と「擬態語」に  
“的”、“地”が後接する用法の特徴

	後接 助詞	オノマトペ の働き	後につく語の 品詞	後に付く語のバリエ ーション
擬態語	的	定語・補語 ・謂語	名詞	あり
	地	状語	動詞	あり
擬音語	的	定語	名詞	なし
	地	状語	動詞	なし

表 10 から、中国語の「笑い」に関する擬音語と擬態語とにおける用法上の差異が明らかになった。擬音語の働きは単一であり、助詞の後に付く語のバリエーションも見られない一方で、擬態語の場合には、その語自体の働きが多様であり、その助詞の後に付く語のバリエーションも、後接助詞を問わず多様である。すなわち、擬態語の用法はオノマトペ自体の働きの点でも後接する語の点でも多様性が認められ、擬音語よりも使用範囲がより広いと言える。それは、「グループ B の擬態語の用例は“的”、“地”が後接する用法に集中している」ことの原因だと考えられる。

さらに、野口（1995）は中国語のオノマトペは状語として用いられることが多いと指摘している。これを踏まえれば、前に述べた“的”が後接する用法よりも“地”が後接する用法の方が多用される」ことの原因もこの点に帰せられると言える。

## 6. おわりに

本稿では、日中両言語における「笑い」に関するオノマトペを中心に、それらの使用実態を把握し、用法の考察を行った。日中両言語のコーパスから得られた用例の分析によって、日本語における「笑い」に関するオノマトペは、擬音語の方が数

が多いが、使用率から見れば、擬態語の方が多用されていることが明らかになった。それに対して、中国語における「笑い」に関するオノマトペは、擬音語と擬態語の数には差がないが、使用率から見れば、日本語の場合と異なり、擬音語の方が多用されることが明らかになった。また、具体的な用法の分析から、日本語の場合は「するの後接用法」と「引用用法」が相補分布となっているが、中国語の場合はこのような相補分布の関係が見られなかった。中国語の「笑い」に関するオノマトペの「引用用法」は擬音語に限られ、擬態語の方は“的”または“地”の後接用法に偏っており、特に“地”の後接用法が多用されていることを明らかにした。その原因については、擬態語自体の働きと後接語の多様性が関わっていると考えられる。

本稿では、コーパスを利用して、日中両言語における「笑い」に関するオノマトペを比較してきたが、オノマトペが翻訳される際に両言語にはどのような差異があるかという点について、さらに検討する必要があると考えられる。このような点についての考察は、今後の課題にしたい。

#### 参考文献

- 小野正弘 (2007) 『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』, 東京: 小学館
- 角岡賢一 (2007) 『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』, くろしお出版.
- 夏逸慧 (2019) 「日本語における「笑い」に関するオノマトペの音韻形態的考察」, 『日本語教育方法研究会誌』 25 (2):124, 日本語教育方法研究会.
- 侯仁鋒・松尾 美穂 (2019) 「マンガにおけるオノマトペの中国語訳についての考察」, 『県立広島大学人間文化学部紀要』 14:75-91, 県立広島大学.
- 中里理子 (2007) 「笑いを描写するオノマトペの変遷: 中古から近代にかけて」, 『上越教育大学研究紀要』, 26:1-14, 上越教育大学
- 野口宗親 (1995) 『中国語擬音語辞典』, 東方書店.

#### 用例出典

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) 日本国立国語研究所
- 『現代汉语語料庫』(CCL) 北京大学中国语言学研究中心

ソン イツ／人文社会科学研究所  
(2020年9月10日受理)